



第54回 関西学院史研究会

戦前の関西学院から世界の楽壇へ —いま蘇える天才作曲家 大澤壽人の煌きの軌跡—

戦前に欧米で大活躍した作曲家・指揮者、大澤^{おおさわひさと}壽人氏（1906-53）は、ベーツ院長の時代に関西学院で学びました。高等商業学部卒業の1930年アメリカに留学。ボストン交響楽団を指揮した初の日本人となり、その才能はパリでも喝采を浴びました。しかし、帰国後の日本は戦争に向かう暗い時代でした。鮮烈なモダニズムは評価されず、戦後は音楽による心の復興を掲げるも、わずか47歳で急逝。いつしか幻の存在となりました。

しかし、21世紀になって奇跡的な復活劇が起こって以降、大澤氏の再評価は著しく、2023年に「没後70年」を迎える今、代表作のCDを聴きながら、その生涯を顕彰します。

● 講 師 ●

生島 美紀子 氏

(いくしま みきこ)

大澤資料プロジェクト代表、神戸女学院大学非常勤講師、
スタンフォード大学大学院修了・音楽学で日本人初の Master of Arts 取得、
大阪大学大学院博士後期課程修了・博士(文学)号取得

2022 12 / 9 (金) 13:20～15:00

大学図書館・地下1階 大学図書館ホール

(西宮上ヶ原キャンパス)

無料・一般参加歓迎・申込不要

主 催

関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022